

特集
P4~6

宮崎大学卒後臨床研修センターの初期を振り返る

2019年度新研修医オリエンテーション



救急蘇生講習会の様子



2019年4月1日～5日の5日間、新研修医(医科31名+歯科4名の計35名)へのオリエンテーションが行われました。

1日目 午前中に小松センター長から2年間の研修プログラムや症例経験・レポート作成方法等の概要説明があり、つづく午後は臨床倫理や医療安全管理についての講義を附属病院新規採用全職員と合同で聴講しました。一日の最後は再び研修セミナー室に戻って卒後臨床研修センター所属のアドバイザーの先生方との懇話会がありました。

2日目 午前中に「医薬品の取り扱い」、「医療機器操作」、「医療安全管理」、「電子カルテ操作」について、他の新規採用職員との合同講義がありました。午後は、宮崎県内の基幹型臨床研修病院の新研修医全員(医科57名+歯科5名=計62名!)が一堂に会し、本学医学部の臨床技術トレーニングセンターにおいて「宮崎県研修医合同基本手技実習」が行われました。県内の新研修医が全員集合して実習を受けることで、研修施設を超えた「横の連帯感」を醸成すること、またその指導を本院卒後臨床研修センター&医療人育成支援センター教員+本院2年次研修医の総勢約30名が担うことで、先輩から後輩への「縦のつながり」を構築することを、第二の「狙い」としました。

3日目 本院研修医35名を対象に救急蘇生講習会を実施しました。午前中の座学のあと、午後は臨床技術トレーニングセンターに場所を移して実技訓練を行いました。前半は基本的スキル(「BLS」、「気道管理」、「静脈路確保等」、「除細動器の使い方」)をそれぞれ個別に習得し、後半はシナリオ演習でチームとして心停止の課題(「急性冠症候群」、「アナフィラキシーショック」、「高カリウム血症」など)に取り組みました。インストラクターは各診療科から1名ずつ選出された先生方にお務めいただきました。

4、5日目 4日目は「放射線従事者の教育訓練(健康診断含む)」、最終5日目は、座学中心で「附属図書館利用」、「メンタルヘルス」、「輸血療法の注意点」、「病理診断」、「医師看護師パートナーシップ」、「保険診療」、「診療録記載やコンサルテーションについて」といったテーマの講義が続きました。

5日間の全行程で、実に様々な部署の方々に講師として、インストラクターとして、アドバイザーとして、ご協力いただきました。病院で働くということはいかにいろんな部署を動かす事であるかということ、そしていろんな方々の手助けと見守りと叱咤激励があって臨床研修が行われていくことを、新研修医の皆さんは実感したことと思います。

これからの2年間、附属病院を中心に県内各地の多くの医療機関でも研修をさせていただきます。これからの医療界を担う若き医療人達にご指導とご支援をどうぞ宜しくお願いします。



2019年度新研修医 集合写真



平成30年度

卒後臨床研修センター修了式



平成31年3月22日(金)、卒後臨床研修センター修了式を開催しました。平成30年度の修了生は、医科38名、歯科2名でした。鮫島病院長から1人1人に修了証が授与され、ベスト指導医賞、ベスト研修医賞の授与もありました。

授与式に参加された先生方から修了を迎えた研修医に心温まるお言葉をいただき、また、ベスト研修医の先生方には受賞の感想や今後の抱負などを述べていただきました。最後に出席者全員で記念撮影を行い、修了式は終了しました。卒後臨床研修を修了した医師として今後の活躍が期待されます。

ベスト研修医賞



写真左から 内山 尚美 先生/工藤 理紗 先生
入佐 浩史 先生

ベスト研修医からのメッセージ

工藤 理紗 先生

この2年間で一言で表すと「つながり」と経験だと思います。様々な場所での先生方、同期、医療スタッフの方々と出会いました。また各科で幅広い経験をさせていただき、広い視野を持ち診療にあたることの重要性を学びました。4月からはそれぞれの専門領域に進みますが、患者さんを良くする、という同じ目標に向かってここで出会った同期と助け合いながら成長を続けられるよう頑張ります。先生方、スタッフの皆様、2年間本当にありがとうございました。

ベスト指導医賞

★レジェンド
指導医

- ★ 1位 中村 禎志 先生(潤和会記念病院)
- ★ 2位 岩切 弘直 先生(都城市郡医師会病院)
- 3位 長嶺 育弘 先生(県立延岡病院)
- 4位 松浦 良樹 先生(古賀総合病院)
- ★ 4位 廣兼 民徳 先生(宮崎善仁会病院)
- 6位 河野 次郎 先生(県立宮崎病院)
- 6位 床島 真紀 先生(西都児湯医療センター)

ベスト指導医からのメッセージ

宮崎県立延岡病院 救命救急センター長 救命救急科長 長嶺 育弘 先生

2年間の研修お疲れ様でした。救急科研修で得る知識・技術は、今後、皆さんがどの診療科に進んでも、いつの日か必ず役立つものだと思います。救急医の想いを伝えて参りました。今回、この賞を頂きその想いが伝わったのかなと感じることができ嬉しく思っております。これからは、研修2年間で得たものだけでなく、各専門科の立場からも後輩の先生方に知識・技術・想いを伝えていって下さい。臨床現場で皆さんにお会いできることを楽しみにしております。



古賀総合病院 内科 医長 松浦 良樹 先生

これからは自己成長しながら、後輩を教えていく立場になります。「自分なんか教えるなんて・・・」と謙遜しないでください。優れた指導者は必ずしも一流のプレイヤーだったわけではありません。自分の欠点をたくさん知っていて、たくさん反省したことのあるあなた、指導者の素質があります。まずは、困難に立ち向かう後輩をあの頃の自分に重ね、自分なりのサポートをしてみてください。きっと伝わりますよ。



	平成20年度 修了者	平成21年度 修了者	平成22年度 修了者	平成23年度 修了者	平成24年度 修了者	平成25年度 修了者	平成26年度 修了者	平成27年度 修了者	平成28年度 修了者	平成29年度 修了者	平成30年度 修了者
宮崎大学・大学院	19	29	25	21	12	29	24	27	28	23	28
県内病院等	2	1	0	1	1	2	2	3	0	0	2
県外病院・大学等	5	6	9	3	9	9	7	2	4	4	8
合計	26	36	34	25	22	40	33	32	32	27	38

2019年度 年次リーダー研修医のご紹介

1年次リーダー研修医

喜多 恒允/林 致子



初めまして。この度一年次リーダーを務めさせていただくことになりました。喜多恒允と林致子と申します。私達は宮崎大学出身で、出身地は県外です。六年前に宮崎に来て、美しい自然と温かい人々に囲まれて生活し、また、お世話になった先生・先輩方の元で宮崎の医療に貢献していきたいという思いで残ることを決めました。こうした恵まれた環境の中で医師としての第一歩を踏み出すことに感謝の気持ちを忘れず、一年目の仲間と励まし合いながら日々精進していきたいと思っています。よろしくお願いいたします！

2年次リーダー研修医

神谷 俊樹/小笠原 奈月



昨年度は現場に慣れることから始まり、日々奮闘の毎日でした。そんな日常で同期は時に仲間、時にライバルでした。お互いの悩みや経験を話し合ったり、飲みに行ったり、旅行したり。小松先生の仰る横のつながりがあったからこそ1年目を無事に終えられました。今年度は多くの後輩も出来ました。横だけでなく縦のつながりも意識して、全員にとってより良い研修になるよう企画を考えていければと思います。これからもよろしくお願いいたします。

2019年度 新研修医の声を聴きました

医科 1年次研修医 内田 暁子



一年次研修医の内田暁子と申します。これから始まる研修生活に、緊張の高まりを感じつつも、大きな夢と希望を抱き、期待に胸を膨らませております。

この2年間で、医師としての技量は勿論のこと、人として大きな成長を遂げることも重要な課題であると認識しています。

ご指導いただく先生方や医療スタッフの皆様、同期の研修医の先生、そして患者さんと関わらせて頂く中で、幅広い知識と感性を身につけるため、たゆまぬ努力を怠らない所存でございます。

至らぬ点もあることと存じますが、ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願いいたします。

歯科 1年次研修医 大貫 雄一



春陽まぶしい4月より、こちらの宮崎大学医学部附属病院にて研修させていただくはこびとなりました。

出身大学も出身地も宮崎とはまったくの無縁ではありますが、出身大学の諸先輩方がこちらでお世話になり、諸先生方のすばらしいご指導や研修環境などを聞いて宮崎で学ばせていただきたく参りました。

今はまだ宮崎というはじめての環境に慣れることで精一杯ではありますが、つねに初心を忘れることなく、謙虚に真摯に精進していく次第ですので何卒よろしくお願いいたします。

新センター教員をご紹介します

心臓血管外科

森 晃佑 先生



今年度より卒後臨床研修センターの教員となりました。心臓血管外科の森晃佑と申します。平成27年度にもセンター教員

を務めさせて頂きましたが、今回2度目の着任となりました。現在卒後8年目で、まだまだ未熟者ですが、研修医の頃の自分を思い出しながら、研修医のみなさんのサポートができるよう頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

消化器内科

鈴木 翔 先生



はじめまして。消化器内科の鈴木翔と申します。

佐賀大学医学部を卒業後、2010年より宮崎大学での卒後臨床研修を

開始しました。

当時から小松先生にお世話になっておりますが、今回、自分が教員として卒後臨床研修センターに入ることを、光栄のような、不思議なような感覚でいます。宮崎での研修を選んでくれた研修医の先生方とのつながりが、より広く、より太くなって、宮崎県の医師パワー向上に繋がればと思います。一緒に顔晴り(がんばり)しましょう！

呼吸器内科

小田 康晴 先生



呼吸器内科の小田康晴と申します。

自治医科大学を平成20年に卒業し、県立宮崎病院での初期臨床研修を経て、五ヶ

瀬、西米良、高千穂と僻地義務を完遂しました。呼吸器内科専門というよりは、一般臨床の経験のある程度積んで参りました。内科臨床の分野で、研修医の皆さんの手助けができればと思います。

医師は人の命を左右する仕事です。厳しく楽しく頑張りましょう。

宮崎大学卒後臨床研修センターの初期を振り返る



現 卒後臨床研修センター長 小松 弘幸

この『卒後臨床研修センター通信』は、2009年4月に創刊し、年3回の発行を続け、今回でちょうど記念すべき10周年（第30回記念号）を迎えました。臨床研修制度が開始されたのは2004年4月、私が卒後臨床研修センター専任教員として着任したのが2006年1月でした。第30号に何を掲載するか、毎週1回の卒後センタースタッフ会議の中で、メンバーの先生方から、「卒後センターの最初の頃を思い出して書いてみてはどうか」とのお言葉を頂戴しましたので、当時の様子を思い出しながら書いてみたいと思います。



◀ 私が卒後臨床研修センター専任教員になった経緯 ▶

2005年11月、私はその年の4月に大学院を修了し、卒後8年目の内科医（専門：腎臓内科）として宮崎大学医学部附属病院の5階西病棟で勤務していました。当時は、新臨床研修制度がどのような仕組みなのかよく知らず、目の前に数か月毎に現れる研修医に戸惑いながらも、むりやり背伸びして指導医らしく振る舞いつつ、自分も一人前の腎臓専門医になるべく診療に奮闘していました。ちょうどその頃、病院では、卒後臨床研修センターで生じている諸問題に対応する専任医師が必要だということで公募を開始していましたが、3か月間全く応募がない状況でした。当

時の病院長で旧第一内科の教授でもあった江藤胤尚先生より、「あなたは臨床研修を天理よろづ相談所病院でやるとし、教育マインドもあるやろう。この始まったばかりの臨床研修制度で研修医をお世話するのは、若い方がいいから、いっちょやってみらんね」と言われ、私も「まあ自分の所属ボスに言われたことだし、興味が無いわけでもない、2年くらいはやってみてもいいかな」という軽い気持ちで応募し、2006年1月より卒後臨床研修センターに着任となりました。私の誕生日が12月30日なので、32歳と2日での新たな船出となりました。

◀ 池ノ上 初代センター長（現 宮崎大学長）との出会い ▶

本院では、臨床研修制度の開始に合わせて副病院長が卒後臨床研修センター長を担当することとなり、初代センター長は池ノ上克先生（現・宮崎大学長）がお務めになられました。池ノ上先生は、「高度先進医療を特徴とする大学病院の研修だけでは新しい臨床研修制度の理念を達成することはできない。地域の優れた医療機関も研修フィールドに巻き込んで、宮崎の医療教育資源をフルに活用してこそ、多様な医療環境にも対応できる足腰の強い研修ができる」とのお考えのもと、研修制度開始の1年前から、宮崎県医師会のご理解も得て、県内の病院を一つ一つご自身で訪ね、新たな臨床研修のコンセプトを説明され、計28の協力型臨床研修病院および研修協力施設と研修病院群のネットワークを構築されました。その礎があったお陰で、現在の宮崎大学病院プログラムは、大学外の県内6基幹型臨床研修病院全てにも協力型病院として加わっていただけており、協力型病院・

施設も計56と倍増するに至っております。初期の卒後臨床研修センターは、副病院長、産婦人科教授、卒後臨床研修センター長の兼務で多忙な池ノ上先生と事務2名の体制だったため、センター内の細かい部分まで十分に把握することは難しい状況でした。私が最初にご挨拶に伺ったとき、「研修医の声やニーズを十分聞いて、彼らが学びやすい環境を整えてほしい。内科・外科といった区分にとらわれず、宮崎全体で基本のしっかりした医師を育てるように尽力してほしい」とのお言葉を頂戴しました。この言葉は14年経った現在も自分の軸に置いている言葉です。その数か月後、池ノ上先生が他の医師に、私のことを「彼は視野が広くていいね」と褒めて下さったことがあったと伺い、褒め言葉ですぐ調子に乗る私は、一人喜んだことを思い出します。池ノ上先生との出会いが、その後私が医学教育領域に長く関わっている大きな要因の一つであることは間違いありません。

◀ 最初の卒後臨床研修センターの様子 ▶

最初の卒後臨床研修センターは、附属病院管理棟2階の旧フィルム現像室・病歴室の一部を改装した場所がありました（右写真：現在は消化器病センター）。卒後臨床研修センターに入ってから第一印象は、「場が荒れている」でした。センターには当時、1期生38名と2期生29名の研修医が在籍していましたが、センター内には8～10名が座れる大きな長方形のテーブルが5つ置かれ、それを共用するスタイルになっていました。一方、彼らは数か月単位で大学内外の病院をローテートしていたため、固定の場所を確保しづらく、結局全員がうまく席を確保できない状況となっていました。また、ゴミ箱はいっぱい数週間そのままとなっている感じで、定期的な掃除も入っていないようでした。女性更衣室もなく、女性研修医はセンター内にあるロッカーの陰でササッと着替えている状況でした。誤解がないよう弁解しますが、これは当時の研修医が荒れていたわけでも悪いわけでもありません。センター内を自治する仕組みがないため、大学内外をローテートし毎日が忙しい研修医にとっては「そのまま」が続いた結果でした。センターの一角には、私が着任するのに合わせて教員用デスクが置いてあり、事務から「毎日ここで仕事して下さい」とのことでした。臨床研修制度が始まって1年半以上が経った1月に突然現れ、台車で荷物を運び込む私の姿をみて、当時の研修医のみなさんはさぞかし驚いたと思います。私のことを知らない研修医の方も多かったのも、最初の一週間は、研修医のみなさんも遠慮していたのか、何者だ？と戸惑ったのか、今さら…という感じだったのか、あまり会話がなかったように思います。



卒後臨床研修センター入り口

◀ 卒後臨床研修センターを整える ▶

着任した最初の仕事は、「卒後臨床研修センター」の環境整備でした。元来掃除は好きな方の私は、掃除好きではない可能性のある事務員を引き連れて、意気揚々と掃除を始めました。確か、ゴミ袋30袋分くらい回収したと思います。その時始めて、コーラの飲みかけを長時間おいておくとゼリー状になることも知りました。そして、センターに入って正面に掲示板を立てかけ（右写真）、右側を研修医デスク＋男性ロッカー（左下写真）、左側を共用スペース（電子カルテ、ソファ等）＋女性ロッカー＋教員デスク（右下写真）としました。女性ロッカーをひっくり返して、パーテーションを入りに据えて、着替えができるようにしました。電子カルテは4台確保し、（当初は卒後センター予算が不足していたので）ソファは他の講座からの払い下げ品を無償でもらってきて置きました。研修医用の書籍が1冊もなかったので、最初は私の本棚をセンターの入り口近くに置き、私の本を活用してもらいました（今ではセンターには約400冊の書籍があり、定期購読書も入れて毎年30～40万円分ずつ買い足し、更新しています）。



卒後臨床研修センター正面



センター右側の研修医デスク（映っているのは第3、4期生）



センター左側（共用スペース）



センター左側（共用スペース）

◀ センター教員としての最初のミッション ▶

センター教員としての最初の仕事は、正月明けの1月4日に辞令交付をいただいた翌日だったと思います。事務の方に、「1月5日に長崎大学から病院見学の医学生が来ますので、研修プログラムの説明をお願いします」と言われました。「研修プログラムってあるのかな？」と思い、「何か資料ありますか？」と聞くと、「説明用の資料はないので、研修ローテート表を使って下さい」と言われたように記憶しています。当日は自分もまだ何が何だか分からないまま、しどろもどろで説明したと思います。研修医から最初に相談を受けたのは、着任から1週間くらい経ってからだったと思います。2名の女性研修医

（2期生のI川先生とN下先生）が私のデスクにやってきて、「先生、研修医が使う女性用手術着は穴が空いていて下着が見えるんです。どうにかありませんか？」と言いました。「これもセンター教員の仕事なのか？」と思いつつも、研修医が始めて相談に来てくれたことが嬉しく、早速、当時の麻酔科・手術部長だった高崎教授のお部屋を訪ねて、「あの…、女性研修医の手術着がですね…、穴が空いているようで…」と話を切り出したことを覚えています。そして無事、女性用手術着が新しくなり、研修医に少しでも私の存在価値を認めてもらえたのでした。

◀ 初期の宮崎大学臨床研修プログラム ▶

宮崎大学の初期の臨床研修プログラムは、1年次必修科目として内科6か月、外科4か月、救急2か月、2年次は必修科目として地域保健/医療1か月、精神科1か月、小児科3か月、産婦人科1か月、自由選択科目6か月で実施していました。1年次の内科、外科、救急を大学病院と協力型病院のどちらで選択するかで、A～Dコース（A：全て大学、B：内科のみ大学、C：外科のみ大学、D：内科と外科が大学）の4つに分かれており、現在よりはローテート選択に少し制限がありました。2年次になると自由選択科目も加わって、現在のプログラムに近いflexibilityがあるのですが、当時は現在のように短期間で多数ローテートするというよりは、1診療科を2～3か月間ローテートを選択し

ている研修医が多かったと思います。私が着任する前は、一度決まったローテート研修先を変更したいという場合に相談する窓口や方法が定まっておらず、「言った者勝ち」のようにになっているという不満が複数の研修医から寄せられたため、年度が変わってすぐに「研修医の希望に基づく病院変更の基準」を審議・制定し、皆が納得できるルール作りを行いました。この時、宮崎大学研修プログラムでは研修医にとって2年間の研修ローテートの決定手順と結果がいかに重要であることを学びました。私が現在でも、卒後臨床研修センター業務の最重要事項としてこの研修ローテート作成と調整に心血を注ぐのは、この頃の経験に基づいています。

◀ 初めての研修説明会でのブース出展 ▶

着任して2か月後の3月19日、福岡市で『医学生のための臨床研修指定病院合同セミナー』が開催され、宮崎大学病院も研修プログラム説明用のブースを出展することになりました。「宮大研修プログラムの特徴と魅力を県外の医学生に説明しなければならない会のような」と分かり、宮大研修プログラムの内容をじっと見ながら、慌ててスライドを作成した記憶があります。この頃に、「大学病院と協力型病院

の双方を自由度高く選択することで、両者の特長を相補的に研修できる」という宮大ならではのコンセプト（2006年当時は、基幹型病院と協力型病院を1年交替で研修する「たすき掛け型研修」が常識で、宮大プログラムのように領域毎に大学内外病院を自由に選べることは極めて稀だった）を前面に打ち出し、今でもこの形式が引き継がれています。

◀ 大慌てで行った第1期生の修了判定 ▶

着任して1か月が経つ頃、事務の方から「修了判定しないといけないみたいです」と唐突に言われました。「シュウリョウハンテイ？何ですかそれは？」と聞き返すと、「それをしないと研修修了証を発行できないんですよ」という話になりました。その時始めて、厚生労働省医政局長が平成15年6月に出した『医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について』や、平成17年6月に出された『医師の臨床研修における修了等の基準に関する提言』などの文書の内容を知り、数十ページの文書を隅々まで読んでみると、修了判定には研修実施期間の評価、臨床研修の到達目標の達成度評価、臨床医としての適正の評価が必要であることが分かりました。特に『臨床研修の到達目標』には必修経験項目やレポート提出の必要なA疾患、20

症状、外科、CPCなどがあり、更に各ローテート先からの指導医評価も必要なることが分かりました。第1期生の修了判定ですので、当然前例などあるはずもなく、自分で何とかしなければならないことを悟り、恐ろしくなりました。「これはまずい…」、慌てて症例レポートの提出を呼びかけますが、なかなか提出されず、PHSで各研修医に電話をしては集め、チェックし、であっという間に2月が過ぎました。この間、1,000症例レポート以上を一人でチェックしていたと思います。そして、2月の時点で半数以上の研修医がCPC未経験であることが分かり、3月中旬に急遽「CPC発表会」と題して、未経験者による公開CPCを5～6症例分計画・実施しました。確か、これを終えた直後、ストレスもあったためか、発熱し数日ダウンしたことを覚えています。

◀ おわりに ▶

以上、私が2006年1月にセンター教員として着任してからの3か月間を思い出して書いてみました。3月末はどのように第1期生を送り出したのか、そして4月にはどのようにして第3期生となる新研修医23名へのオリエンテーションを1週間実施したのか、正直あまり記憶がありません。そのくらい、慌ただしく過ぎた3か月だったのだと思います。その後、新形式での研修医対象教育カリキュラムの立ち上げ、いろいろな新制度の整備、二人目の卒後臨床研修センター専任教員の配属、研修医のみなさんが巻き起こす悲喜交々の出来事（そのうち幾つかは、私が墓場まで持って行かなければならないようなこともありました…！？）が繰り返されていくのですが、こうやって書いていくとエンドレスになりますので、今回は「最初の3か月」に限ってということでご容赦下さい。もし、また機会がありましたら、続きを…と思います（そんな機会はないかもしれませんが…笑）。



2006年8月の宮崎観光ホテルでの研修説明会
（左から鷹取係長、2期生の中下先生、木下先生、小松、戸井田先生、勝田先生）

アーカイブ この10年間に宮大プログラムで学んだ研修医たち



2009年(平成21年)の1年次研修医メンバー



2010年(平成22年)の1年次研修医メンバー



2011年(平成23年)の1年次研修医メンバー



2012年(平成24年)の1年次研修医メンバー



2013年(平成25年)の1年次研修医メンバー



2014年(平成26年) 1年次研修医メンバー



2015年(平成27年) 1年次研修医メンバー



2016年(平成28年) 1年次研修医メンバー



2017年(平成29年) 1年次研修医メンバー



2018年(平成30年) 1年次研修医メンバー

第2回 宮崎県 病院内メディカルラリー

2019.3.2

多様な医療シチュエーションに県内合同チームが挑戦し、診療能力を高め合う！



3月2日、第2回宮崎県病院内メディカルラリーが開催されました。ここで「メディカルラリーってなんだ？」という方にご説明します。メディカルラリーとは、救急領域で盛んに行われる競技会で、準備されたシナリオシミュレーションに挑戦者が挑んで競います。日常の診療(知識、技能、態度)の成果を発揮して、自分たちの実力を試しながら、シナリオに挑戦することで生じる成功・失敗体験から多くのことを学んでいた、今後の診療に生かしていただくということが目的です。

当日は、宮崎県内の8病院から、研修医13名、看護師33名の計46名が競技者として参加。また、スタッフ(医師、看護師、救急救命士・救急隊員、事務で構成)計45名が運営側で参加しました。競技者は6つのチームに分かれ、5つのシナリオシミュレーションに挑戦しました。当院卒後臨床研修センターからは、原 大介、吉田 直樹、神谷 俊樹、田村 穂高、柿沼 裕樹、鍋倉 弘樹、檜原 亮先生が挑戦してくれました。



行事案内 (4月～8月)

4月	1日(月)～5日(金)	2019年度新研修医オリエンテーション
	6日(土)	宮崎県臨床研修医説明会・講演会／新研修医祝賀会 @宮崎観光ホテル
6月	6日(木)	2019年度医師臨床研修マッチング説明会 宮崎県7基幹型病院説明会
	17日(月)	研修指導医対象研修評価(EPOC)説明会
	23日(日)	レジナビフェア in 東京 @幕張メッセ 国際展示場
	29日(土)	宮崎県専門プログラム合同説明会 @シーガイア
7月	7日(日)	レジナビフェア in 大阪 @インテックス大阪 1・2号館
	18日(木)	宮崎大学臨床実習終了納涼会・全診療科合同説明会 @宮崎観光ホテル
8月	13日(火)・9月2日(月)	宮崎大学医学部附属病院 医科マッチング面接
	15・29日・9月5・12日(木)	宮崎大学医学部附属病院 歯科医師マッチング面接

「なんでも掲示板」 原稿募集！

宮崎都市伝説、失敗リカバリー談、
研修あるある話など、
研修に係わる話ならなんでも
原稿募集中です！

連絡先

宮崎大学医学部 学生支援課 卒後臨床研修係 内線2385/2386

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200

TEL0985-85-1864 FAX0985-85-0693

E-mail:sotugo@med.miyazaki-u.ac.jp

